

百草

ひやく にち そう

No.31

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
TEL03-5747-2610 FAX03-5747-2620
e-mail・info@hasanz.com
URL・https://hasanz.com/

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付！
NPOの非営利活動にご寄付ご支援をお願いします



市民後見事業の意義を再確認

NPO法人たすけあい大田はせさんず
理事長 棧敷洋子

成年後見制度の一つに「任意後見」があります。独居の高齢者などが、将来判断能力が低下しても生活が成り立つよう、元気なうちに「後見を任せたい内容」を公正証書により定め、契約するものです。この任意後見について、国は弁護士などの専門職後見人だけではなく、市民が参加して担う「市民後見」を推進しようとしています。はせさんずは、2012（平成24）年に市民後見事務所を立ち上げ、現在、複数の任意後見契約を結んでいます。区民向けの市民後見講座も開催してきました。

はせさんずでは、任意後見契約と同時に見守り契約についても公正証書を作成し、定期的に訪問して生活状況や健康状態、本人の思いを把握します。そして、ときに、どんな介護サービスを望むかあるいは望まないか、ケアマネジャーと話したり、治療方針について医師の考えを確認したり、本人の意思に基づくきめ細かなサポートをしています。

一方、3年前から、「居住支援」として住宅確保要配慮者の賃貸住宅入居のお手伝いをしています。本人だけで不動産屋を回っても物件を紹介してもらえないことも多いなか、制度を知る者が同行し交渉することで、契約に至っています。一昨年からは、緊急連絡先がなく契約できない人のために緊急連絡先になるサービスを始めました。利用者は現在20数名になっており、他区から相談の電話が入ることもあります。

これまで遭遇したケースには、たとえば、物件が見つからずホテル住まいを続けていた車椅子利用の障害者が、公的サービスやリハビリが受けられず、きちんとした食事もとれず糖尿病が悪化して、身体機能の低下で死亡といった例や、かといえ、生活保護は出ても住宅が探せず、手持ち資金もなくなって、もう羽田空港で寝るしかないという状況で、同行者がねばって交渉したところ、なんとか公共施設利用にこぎつけた、その後アパートが借りられた、といった例もあります。身寄りもなく一人暮らしの人で、「自分の納骨はおまわりさんに頼んである」などと話す人にも出会いました。

こうした活動を通して思うのは、困難者個々の今後の生活を一緒に考え、適切な交渉や手続きを支援していく、「伴走型」の市民後見が必要ではないかということです。利用者は、自身の状況に応じたいいサポートを受けることで、きっと安心して暮らすことができます。はせさんずは、今後も市民後見事業を継続し、後見人養成にも引き続き取り組み、困難を抱える人が安心して生活できるようにしていきたいと思えます。

第24回通常総会開催

議案のすべてを承認

第24回通常総会を5月22日(日)10時から、はせさんず事務所1階(デイホーム)で開催しました。3年ぶりに通常の形での開催*となりました。

*マスク着用、入口での手指消毒、換気、卓上にアクリル板設置などの対策はとりました。

社員総数25名のうち、出席者15名、委任状表決者(議決権行使含む)8名により総会は成立し、下記4議案が異議なく承認されました。

- 第1号議案 2021年度事業報告
- 第2号議案 2021年度決算報告
- 第3号議案 2022年度事業計画(案)
- 第4号議案 2022年度活動予算(案)



●2022(令和4)年度事業計画

新型コロナウイルス感染長期化のため、本年度も事業縮小、中止の場合があります。

[会員制活動事業]

年間6,400時間を目標とします。移送サービス活動会員の研修会は引き続き行い、安全対策などを徹底します。

たすけあい活動の活性化を図るため、広報に力を入れます。寄付を募るキャンペーン期間を定め、寄付活動の一層の強化を図ります。

連携している外部団体には継続参加し情報交換するとともに、地域の関連の団体とも継続交流を図ります。

[介護予防事業]

元気かいは、継続のため全体的な活動の場としての会場確保や、健康体操等を取り入れた内容を検討します。

寄り道カフェ(居場所)は、池上駅前商店街の貸しスペース「テラッコ池上」で継

続して運営します。高齢世代、子育て世代、子どもなど、いろいろな世代が参加しやすい講座などを組み合わせ、毎週開催します。

[介護保険事業]

大田区総合事業や自費サービスも合わせた活動目標は、訪問介護が年間9,900時間、居宅介護支援は年1,512件のケアプラン作成と月7人程度の認定調査、通所介護は年間利用者3,960人です。通所介護は利用者ごとの個別のケアを大切にしながら、体力維持を図る体操プログラムや利用者が参加できる手作りおやつなどを実施して運営し、近隣の保育園児との交流を図ります。

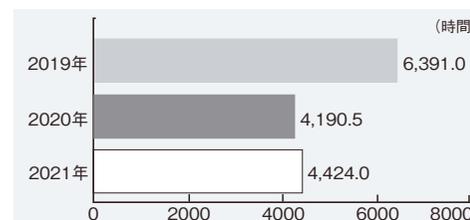
今年も職員やヘルパーのレベルアップ研修に取り組みます。

[障害福祉サービス事業]

年間7,800時間を活動目標とします。相談支援事業を検討し体制づくりをめざします。外部会議にも継続して参加し、サービ

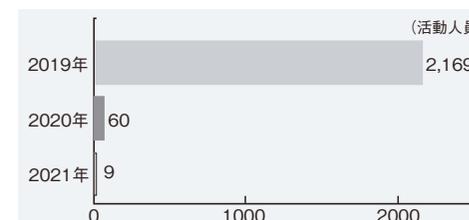
●2021(令和3)年度事業報告資料(3年間の部門別活動状況)

[会員制活動事業]



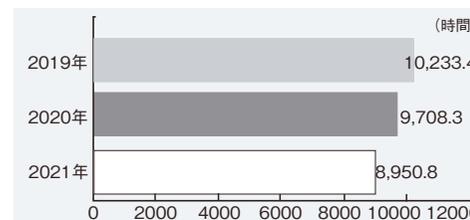
目標の6,400時間に対し69.1%の実績だったが、前年度比は105.6%と増加。新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、特に移送サービスの利用が回復した。

[元気かい]



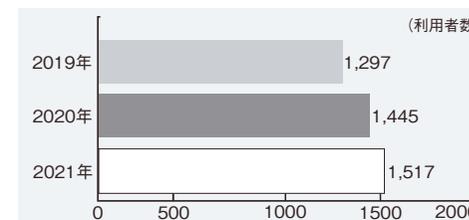
新型コロナウイルス感染防止のため、前年度より引き続き活動休止の状況である。

[介護保険訪問介護事業]



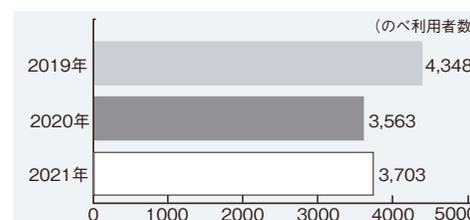
大田区総合事業や保険適用外サービスも合算して、目標の9,960時間に対し89.9%の実績で、前年度比も92.2%と減少。サービス提供責任者のうち1名が休職中で利用者を増やせなかった。

[介護保険居宅介護支援事業]



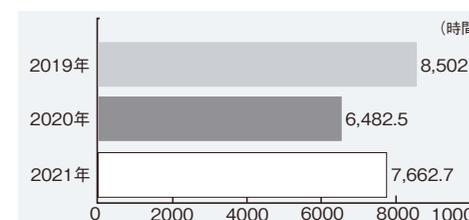
要支援者を含む利用者数の目標1,488人に対して101.9%の実績、前年度比も105.0%と増加した。利用者数が安定したなか、感染対策としてWEB会議等も試みている。

[介護保険通所介護事業]



コロナ禍のなかで暫定目標とした利用者数4,320人に対し85.7%の実績だが、前年度比は103.9%と回復。緊急事態宣言発令中に利用者数を抑制したが、感染対策を徹底し、サービス方法を工夫して事業継続した。

[障害福祉サービス事業]



目標の7,800時間に対して98.2%、前年度比は118.2%の実績。コロナ感染による利用自粛が少なくなったので、対応できるヘルパー不足のなかでもできるかぎりサービスを提供した。

スや研修などで事業者間の連携を図ります。

[市民後見事業]

任意後見活動や見守り活動を促進します。ケアマネジャー等との連携による後見相談を増やします。市民後見人の養成講座を実施します。

[その他の事業]

保育(大田区委託)は、調布、蒲田、大森、糀谷・羽田の各地域庁舎で実施される母親

教室の中での保育を年間104回担当します。

外部への講師派遣、学校団体の職場体験、現場研修などを引き受け、地域貢献と同時にNPOの活動の実際を知ってもらいます。

●決算・予算について

2021(令和3)年度の会員制活動、介護保険、障害福祉サービス等を合わせた法人全体の総収入額は1億3,580万円(前年度

はせさんず、ご寄付をありがとうございました

2021(令和3)年度寄付者

浅野けい子	尼寺稲三郎	安藤くに子	石田絢子	石寺隆義	伊藤英子	上金洋子
扇田みゆき	大澤恵美子	乙部道子	金子花代	神谷俊寛	川江正人	川口幸子
菊池三郎	工藤美知子	小平康人	後埜上克夫	駒澤和子	小松良子	坂口郁子
佐藤精一	栈敷洋子	清水和子	清水真人	鈴木久美子	鈴木正身	高木敦子
高木清彦	高杉玲子	高橋和子	高橋大吾	高場聖悟	田島和子	田島美智子
田中俊博	田村政子	對馬克己	堂六雅子	富田新次	豊田重昭	長岡慶子
長崎靖子	那須恵子	野口健治	濱田伸子	早川治子	原田一恵	原田光明
深見雅子	福本忠雄	松村芳美	三木康雄	宮浦完次	宮崎代美	宮 輝彦
森みつ子	安岡大作	山井栄子	山川 哲	山田麻澄	山本純子	吉崎勲夫
吉田安男	米山万寿子	渡辺登志子	渡邊 泰			

以上 67 名 (敬称略五十音順) 総額 2,200,492 円でした。皆様からのご芳志は、はせさんず運営費として有効に使わせていただきました (p.8 の「miniNews」に関連記事掲載)。なお、大田区より福祉有償運送補助金として 402,170 円の交付を受けています。

比 105.9%)、総支出額は 1 億 3,192 万円(前年度比 102.8%)。当期収支差額 388 万円。会員制活動では 200 万円を超える寄付があり、全体で 85 万円の黒字となりました。介護保険訪問介護および障害福祉サービス事業では、年間活動時間は目標を下回りましたが、相対的に人件費も少なくなり、補助金なども加えて、収支は黒字でした。また、居宅介護支援事業、通所介護事業も若干の

黒字で、介護保険等事業全体では 303 万円の黒字となりました。コロナ以前の状態までなかなか戻らず、活動を広げることが難しい状況です。2022(令和4)年度の予算は法人全体で 1 億 3,936 万円(前年度比 101%程度)としました。コロナ感染状況の鎮静化を見据えて、各事業の前年度実績をもとに作成しています。

2022(令和4)年度月別活動予定

- 4月 元気かい、寄り道カフェ再開(以後継続して開催)
- 5月 第24回通常総会
- 6月 『百日草』No.31・『はせさんずニュース』No.97(臨時号)発行
- 7月 移送活動者安全研修会
- 8月 成年後見制度内部職員研修
- 9月 介護職員検診(検便)、『はせさんずニュース』No.98(夏号)発行
- 10月 職員防災避難訓練、市民後見人養成講座(3日間)、ヘルパー研修会
- 11月 寄付キャンペーン、『はせさんずニュース』No.99(冬号)発行、職員健康診断

- 12月 年末懇親会
- 1月 『はせさんずニュース』No.100(新春号)発行、障害者支援研修会
- 2月 講演会、ヘルパー研修会
- 3月 移送活動者情報交換会

新型コロナウイルス感染状況等の変化によっては事業の縮小・中止などがあり得ます。



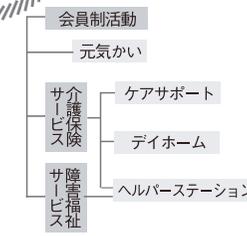
mini News

各部門今年度はここが重点!

会員制活動

アルコール検知器導入で安全運転

安全運転の重要項目「飲酒運転ゼロ」をめざし、アルコール検知器を導入します(法的にも10月施行)。最近炭酸飲料に微量なアルコールが含まれることもあり、暑い日や喉が渇いたときも注意が必要です。運転会員全員に検知器を配りますので、ご協力ください。(矢嶋早苗)



ヘルパーステーション

事務効率化と情報共有の強化を図る

サービス提供責任者にとって介護計画書・指示書等の書類作成にかかる負担は少なくありませんが、前年導入のPCソフト運用を本格化させ、書類作成を容易にして事務作業を軽減し、情報の一元管理を進めます。いつでも参照して確認できる情報共有を強化しながら、新たな気づきや早期の問題解決につなげていきます。(榎拓巳)



デイホーム

利用者も職員も明るく前向きに

長引く新型コロナ対応で利用者も職員も疲弊している状況からの脱却を目標に、「楽しい!」「おもしろい!」「うれしい!」など充足感や幸福感を感じられるよう、サービス内容を充実させていきます。明るく前向きな気持ちでいると、おのずと体の動きもよくなるもの。体操にも工夫をして身体機能の低下予防を図ります。(岡田香)



ケアサポート

地域連携の活動を広げる

地域課題や地域づくりに取り組む地域福祉課の研修に参画したり、医療関係者との地域包括ケアの会に参加したりするなど、地域との連携を図る活動を広げます。これらの地域活動を通じて、利用者一人ひとりに対するケアマネジメントの質を上げ、地域の「相談窓口」としての役割を広げることめざします。(清水桂子)



元気かい

新しい道具立てに挑戦

健康麻雀、俳句、英会話サロンは再開。適切な感染予防対策(消毒&会話マナー)をとれば楽しい元気かいが可能と考えています。以前実施したiPadを使った学習会をふまえ、高齢者に必需品となりつつあるスマホやiPadを通じて、リモートでも楽しめるふれあいの場、また、子どもたちにもアピールするふれあいの場を探っていきたい。(佐藤悟)



私たちのあゆみ

2021(令和3)年4月~2022(令和4)年3月

- 2021. 4. 8(木) 大田 NPO 活動団体交流会 (役員会、議員懇談会、学習会、こども部会) 以後全 20 回 矢嶋
- 17(土) 東京のくらしの足を考える会 オンライン参加 以後全 3 回 佐藤
- 20(火) 大田区訪問介護事業者連絡会・研修会 棧敷
介護職員初任者研修(東京都立美原高校) 講師として矢嶋
- 23(金) 『はせさんずニュース』No.93 発行
以後9.30No.94、12.7No.95、2.3No.96発行
- 27(火) 東京都社会福祉協議会たすけあい部会 以後全 7 回 (総会 2 回を含む) 矢嶋
- 5.1(土) セーフティドライブコンテスト 移送活動者全18名参加
- 23(日) 第 23 回通常総会 はせさんず事務所にて
- 6.11(金) 大田区介護サービス事業者研修 以後全6回 清水・平山・鈴木・小室
- 21(月) 大田区移動支援従事者ネットワーク 以後全 7 回 棧敷・榎
- 28(月) 大田区介護保険課介護支援専門員研修 以後全4回 清水・平山・鈴木・小室
- 『百日草』No.30 発行
- 7.20(火) ヘルパーステーション&ケアサポート&デイホーム
合同研修「事故防止と安全対策」 はせさんず事務所にて
参加者12名
- 大田区在宅医療連携推進協議会 以後全2回 棧敷
- 30(金) デイホーム運営推進会議 書面連絡による 以後全 2 回

トップニュースは、No.93 春号「はせさんずサービスの利用範囲を拡大します」、No.94 秋号「コロナ禍のなかでどうおすごしですか」、No.95 冬号「2021 年度寄付キャンペーン中 はせさんずにご寄付ご支援をお願いします」、No.96 新春号、「NPO の役割を再確認しながら進みます」でした。

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、前年に引き続き、原則として議決権行使書(郵送)による参加方式で開催しました。



『はせさんずニュース』No.93



6月・抗原検査実施



7月・オフィス環境



7月・移送活動(自動車の部位を使ったストレッチ・筋トレ)

■ご冥福をお祈り申し上げます

栗原 美智子さん 富田 新次さん 永田 靖子さん 中村 扶さん 原田 光明さん
 東谷 じゃんさん 東恩納 文江さん 松井 幸代さん 村井 茂男さん 横山 森さん
 (会員のみ)

- 8.16(月) ヘルパーステーション&ケアサポート&デイホーム
合同研修「感染症対策」 はせさんず事務所にて 参加者12名
- 27(金) 大森地域福祉課スキルアップ研修 以後全2回 清水・平山・小室
- 9.21(火) 大田区自立支援協議会 以後全 4 回 棧敷・榎
- 10.12(火) はせさんず寄り道カフェ テラッコ池上にて 以後全 9 回
参加者のべ 45 名
- ハラスメント研修 オンライン受講 榎
- 14(木) ヘルパーステーション&ケアサポート&デイホーム
合同研修「虐待防止への取り組み」 はせさんず事務所にて
参加者13名
- 29(金) ヘルパーステーション&ケアサポート&デイホーム
合同研修「認知症ケア 倫理・法令遵守 個人情報保護」
マニュアル読み合わせ はせさんず事務所にて 参加者13名
- 11.11(木) 職員防災・避難訓練 全 6 回 佐藤 参加者のべ 81 名
ヘルパーステーション&デイホーム&ケアサポート
合同研修「倫理・法令遵守」 外部講師による はせさんず事務所にて
参加者15名
- 13(土) さわやか福祉財団関東ブロック会議 佐藤
- 30(火) さわやか福祉財団事務所訪問 棧敷・高木
- 坂口郁子初代理事長とともに訪問。財団の堀田力会長、清水肇子理事長としばし歓談しました。
- 12. 1(水) 2022 年版パラアートカレンダー制作・販売 94 部
- 8(水) 主任ケアマネジャー研修 全 12 回 清水
- 2022. 1.28(水) 安全運転管理者講習受講 内山
- 2.12(土) さわやか福祉財団地域まるごとケア・プロジェクト
報告会 オンライン参加 佐藤
- 16(水) ヘルパーステーション&デイホーム&ケアサポート
合同研修「認知症の理解と対応」 はせさんず事務所にて
参加者13名
- 3. 29(火) 移送サービス運転協力者講習会 はせさんず事務所にて
参加者 13 名



合同研修
(虐待防止への取り組み)



職員防災・避難訓練で全員避難



合同研修会
(倫理・法令遵守:外部講師)



さわやか福祉財団訪問



2022年版
パラアートカレンダー

【ご協力感謝！寄付金の活用について】

■事業継続の大きな力になっています！

毎年会員の皆様やご家族、関係者の方々から寄付金のご協力をいただき、本当にありがたく、感謝しています。さまざまな活動の助けになっています。

会員に最も多く利用されている移送サービスも、感謝料の大部分が活動者への謝礼とガソリン代になるので、事業継続の費用としてはほとんど残らない現状です。安定して事業運営し、たすけあいサービスの用具を購入するには寄付金が頼りになります。

■新たに加わった検査ニーズ、防災への活用も

近年、安全運転のためのチェックが厳しくなり、アルコール検知器による事業所内検査も義務となりました（p.5の「miniNews 会員制活動」参照）。この器具も全部、事業所が用意しなくてはなりません。購入には早速、寄付金を使わせていただくつもりです。

災害に備えての防災用品もそろえなくてはなりません。いざというとき利用者、職員ともに安全に対応できるように、防災用品の購入にもあてたいと考えます。

■市民後見人の養成に

2012（平成24）年に始めた市民後見事業。制度の周知に努め、任意後見を広めるため『成年後見準備ノート わたしのこれから』という冊子も出版しましたが、相談はそれほど多くありませんでした。それがここ2～3年、ケアマネジャーやサービス提供責任者からの相談が増えてきました。今年4月には、判断力があっても高齢や体力の面で金融機関や役所へ行くのが困難な人も気軽に利用できるよう、料金表を作成しました。



はせさんずでは個人ではなく法人として後見人を引き受けるので、スタッフの養成も大事です。今年は寄付金を活用して養成事業（10月に市民後見人養成講座）を実施する予定です。また、相談依頼には職員が2名で依頼者宅に出向いて聞き取りをします。任意後見までしなくても、部分的な利用もできるようにしていきたいと思います。

■新たなしくみ・サービスも創出していきたい

はせさんずは、今後も多くの理解者を得て応援をいただき、ボランティアなたすけあい活動を推進していきたいと思います。真に社会に必要とされるしくみ、会員に必要とされる新たなサービスを創出、発展させるためにも、ぜひ、寄付金を活用させてもらえればと思っています。（矢嶋早苗）

編集後記

マスク生活が長引き、声をそろえて歌ったり会食したりも少なくなって気持ちの晴れない日々ですが、はせさんずではボランティア、介護職、ケアマネなどが利用者のため前向きに忙しく働いています。毎日何かしら事件(?)があり、人手不足でもなんとか対応しなければならぬので、コロナ禍を超えていく“継続は力なり”を実感しています。（乙部裕美）